

蔵王の未来、自分の未来わくわく大作戦！

～地域の材（蔵王かぼちゃ）を核にした探究的な学びを通して、主体的な子どもを育てる～

1 単元の目標

- 蔵王の自然・温泉・食などの地域資源に主体的に関わり、自ら問いを見いだして探究する力を育てる。
- 体験や対話を通して地域の人々の思いや願いに触れ、自分にできることを考え実践しようとする態度を育てる。
- 学んだことを整理・分析し、表現・発信する力を身に付ける。

2 単元の概要

『総合は生き方につながる学習』であること、『探究のサイクル（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り）』を回していく学習であることを共有し、蔵王をテーマに子ども自身の「？」から学習をスタートさせた。温泉・自然・食のつながりに気付く中で、最も身近でありながら知らないことの多い「食」に焦点を当て探究を進めた。

3 学習内容と子どもの姿

【1学期：身近な食の探究（稲花餅・ジンギスカン・蔵王かぼちゃ）】

子どもたちは自分で選んだ食べ物について、調べ学習やインタビュー、資料作成を行った。『なぜ昔から食べられているの？』『どこで作られているの？』など新たな疑問が次々に生まれ、問いを更新しながら探究する姿が見られた。

【2学期：蔵王かぼちゃの探究（中心単元）】

多くの疑問が集まった『蔵王かぼちゃ』を全体テーマに設定。『生産者が2名なのはなぜ？』『どんな思いで作っているの？』と問いを立て、学校運営協議会委員の荒井さんの協力をへて、生産者の二ノ戸さんに直接話を聞いた。子どもたちは真剣にメモを取りながら耳を傾け、『自分たちも広めたい』『応援したい』と当事者意識をもつようになった。



単元のきっかけ蔵王遠足



ウェブングで整理・分析



荒井さんへのインタビュー



蔵王かぼちゃ農家 二ノ戸さんと



二ノ戸さんへのプレゼンテーション

祭りに向けてアンケートや提案活動を行い、プレゼンテーションを実施。結果として“未来ラジオ”での発信機会を得て、蔵王かぼちゃ物語、クイズ、チラシ配布、ダンスなど、30分間のプログラムを自分たちで構成しました。自分だけの蔵王かぼちゃの顔出しパネルつけ、会場と連動させながら蔵王かぼちゃの魅力について発信した。



『蔵王かぼちゃ祭り RE 2025』 道の駅やまがた蔵王にて

活動後には『もっと学校のみannaにも知ってほしい』という声上がり、校内イベント「ざおかぼフェス」を開催。試食や全校ダンスを通して、地域の食の魅力を広げた。



全校生へ向けて『さくらっこ蔵王かぼちゃフェスティバル』

【3学期：未来につなぐ個人探究】

全校の感想をまとめた応援パネルを生産者へ届けた後、『自分たちに何ができるか』をテーマに個人探究へ発展。蔵王かぼちゃ、自然、温泉、樹氷など、それぞれが関心を広げ、蔵王の未来を見据えて考える姿が見られた。（下記のスライドは、「蔵王かぼちゃの未来」をさらに考えた児童の作成資料）

<p>ざおかぼをさらに広めるために</p>	<p>目的</p> <p>ぼくは、国産かぼちゃの魅力を伝えるのには、もっといろいろな国産かぼちゃの品種を知りたい。その魅力を伝えていきたい。だから、国産かぼちゃの魅力を伝える活動をしていきたい。</p> <p>国産かぼちゃの魅力を伝える活動をしていきたい。</p> <p>国産かぼちゃの魅力を伝える活動をしていきたい。</p>	<p>①クラブを作る。</p> <p>・国産かぼちゃの魅力を伝える活動をしていきたい。</p> <p>・いろいろな国産かぼちゃの品種を知りたい。</p>	<p>②イメージざおかぼをつくる</p> <p>・イメージざおかぼをつくるのには、イメージした国産かぼちゃの品種を知りたい。</p> <p>・イメージざおかぼをつくるのには、イメージした国産かぼちゃの品種を知りたい。</p> <p>・イメージざおかぼをつくるのには、イメージした国産かぼちゃの品種を知りたい。</p>	<p>(仮) スケジュール</p> <p>2025年10月10日 国産かぼちゃの魅力を伝える活動をする。</p> <p>2025年11月10日 国産かぼちゃの魅力を伝える活動をする。</p> <p>2025年12月10日 国産かぼちゃの魅力を伝える活動をする。</p>
-----------------------	---	--	--	--

4 まとめ

- 問いを自ら生み出し、体験や対話を通して解決しようとする主体的な学びが育った。
- 地域の人々の思いに触れ、『応援したい』『広めたい』と自分事として行動する姿が見られた。
- 発信する活動を通して、表現力と協働性が高まった。
- 地域の未来と自分の生き方を結び付けて考える意識が芽生えた。